

無題

八王子市立いずみの森義務教育学校

九年 篠崎 龍世

私には「お母さん」がない。私の母親は私が二年生、八歳のときにがんで他界した。小学校低学年の時に母親が亡くなったせいで、生活面や人間性の面でなにかと苦労することが多かった。学校の周りの人や街で見かける家族連れを羨ましく思っていた。その度に世の中には私より不幸な人がたくさんいるから自分は彼らより幸せだと言いきかせていた。

私の父は母の介護をするために仕事を休業した。母は寝たきり、父は休業で収入がなくなった。当時の私は幸せものだったからそんなことは気にしていなかったが、時間がたつてあの時どうしていたのか聞いてみたことがあった。すると父は、介護給付金を使ったと答えた。この制度は簡単に言えば家族の介護で仕事を休業する場合に、給料のいくらかを受け取ることができるとい制度だそうだ。この制度のおかげで私たちの暮らしが支えられた。介護給付金の財源の半分以上は税金である。税金は私たちの暮らしをさまざまな角度から支えてくれている。

私が小学五年生の時に父が手術により数ヶ月入院した。その際も、助成制度に支えられた。父は再婚していなかったか

ら、再び収入がなくなった。私も不安に感じていたが、ひとり親家庭等医療助成制度という制度があったおかげで父は収入がなくても安心して手術をうけられた。この助成制度にて扱われる助成金も主な財源は税金である。

そして、父に税金についての話を聞いていくと私たちは遺族年金という遺族のための年金を受け取っていることがわかった。さらにこの遺族年金は所得税も相続税も課税されないと知った。これらの税金はこの場合でも適用されると思っていたが、違った。やはり税金は国民の生活を豊かにするために適切な徴収の仕方をしていると感じた。

この作文を書くうえでの作業の中で私の税金の見方が大きく変わった。最初は私たちの見近にある税金やそれによって支えられているものといえば消費税、義務教育ぐらいしか思いつかなかつたが、今は、さまざまな助成制度や給付金が税金によって支えられていると実感した。税金というとてもいいイメージではなかったが、私たちの暮らしを支えるうえでなくてはならない必要不可欠なものだと思った。しかし、助成金などは日頃からまじめに税金を収めないと受け取れないため、私が社会に出たら自分、そして世の中の暮らしをよくするためにしっかりと税金を収めるようにしたい。

## 《東京国税局管内納税貯蓄組合連立大会優秀賞》

知ってほしい 調べてほしい 税金の利用

八王子市立城山中学校

三年 須永 明日香

令和三年、七月九日。私は、家庭の事情で児童養護施設通称「施設」と呼ばれる所で暮らすことになりました。あまり、施設について馴染みがなく、理解していないという人には、知ってほしいですし、これからの生活でも気にかけてほしいことなので説明します。

施設は、保護者がいないこともや、虐待されたことも、保護者の病気・失業により子育てできなくなつたことにも対し、安定した生活環境を整えるときにも、生活指導、学習指導、家庭環境の調整等を行いつつ、養育を行い、子どもの心身の健やかな成長と自立を支援する目的をもつた場所です。私も入所するまでは、どのような場所なのか、これから自分がどんな生活をしていくのか知らず、不安な面もありましたが、今現在、こうして元気にすくすくと過ごしているのには、税金のもとで成り立っている施設の生活があるからです。

そして、税金のもとで成り立っているということをもっと多くの人に知ってもらい、他の税金の使われ道を調べるきっかけにもなってほしいので、生活のどのような場面に税金が使われているのか、具体的に紹介します。

まず、住む場所です。施設の建物を建てるお金はほとんど

全てが税金から出されています。施設の規模や住む人数はそれぞれ異なるため、きちんとした数字を提示して話すことはできませんが、施設を建てるのには何億ものお金が必要なのです。建物に加え、災害への対策として、屋上や、避難用すべり台の設置などがされているのでとてもお金がかかります。次に、食事です。大体の施設では、学校給食のように献立が決まっており、どの献立もバランスや年齢に合った栄養豊、季節感などをふまえた食事になっています。その食事の食材を買うのもほとんど全てが税金から出されています。

次に、衣服です。下着は勿論、季節に合った服、好みの服など、自分自身が選び、それを着ることができ、今の時代に大切な多様性などが大切にされています。そして衣服を買うのもほとんど全てが税金から出されています。

他にも、学習塾や習い事に通わせてもらったり、退所した後の私生活の準備をしてもらったりするの、ほとんど全てが税金から成り立っているのです。

きつと、施設について知らない人は、施設で暮らしていることに対して「かわいそう」とか「税金のありがたみを知らない」という思想をもっている人もいることでしょう。でも決してそんなことはありません。勿論、施設で過ごしていることにもしかわからない痛みや苦しみがあります。しかし、本当の家族と暮らすことができなくても、それ相応の幸せな生活を与えてくれ、その幸せに対しての感謝の意を決して忘れていません。

だからこそ私は、納税できる人になります。

## 《東京国税局管内納税組貯蓄組合連合会優秀賞》

社会をつくるための資金

八王子市立由木中学校

三年 藤本 稜大

先日、僕の自転車が盗まれてしまった。初めての出来事で不安な気持ちで交番に行った。

お巡りさんが親切に盗難届の手伝いをしてくれましたので、見つかるかはわからないけれど、少し気が軽くなった。僕は正直、税金について今まで真剣に考えてこなかったが、こうしていざという時に犯罪や事故から守ってくれる人がいることに、安心した。考えてみると警署や消防署だけでなく、僕が通っている中学校も、児童館や図書館も、当たり前前に利用してきた場所は税金で運営されている。道路の整備やゴミ処理、トイレを流したその後だって、人を雇ったり設備を作って管理するのにはたくさんのお金がかかるはずだ。生活を振り返ると、清潔で安全に過ごせるのは、税金がそういうところに使われているからなのだと思う。

そもそも税金はどんな種類があるのか、消費税以外よく知らなかったので調べたら、国税庁の「税の学習コーナー」がわかりやすかった。所得や不動産、法人、お酒や宿泊など、いろいろな分野で課税されている。集められた税金は税収といい、日本の令和六年度予算の税収は六十九兆六千八百八十億円だそうだ。その使い道は、社会保障や公共事業、防衛、教育や科学振興などだそうで、僕が飲んだジュースの消費税分も

その一部になって、宇宙の研究に使われたり、誰かの役に立っていることを想像すると、なんだか誇らしい気持ちになった。そして、その税の使い道を決めるのは国会や地方議会で、選挙で選ばれた議員のみなさんが会議を開いて議論して決まっていくのだそうだ。もし例えば僕に、税金を使って日本全部Free WiFiにしてほしいという要望があったとして、僕にとってはやってほしいことでも他の人にとってはそうとは限らないし、税収を上げればいいと思って税金を多くしすぎれば、自由に使えるお金がなくなると人々の生活が苦しくなってしまう。集められる税収の量と、何にどれだけ使うかのバランスを考える必要があるって、いろいろな意見もあるだろうし、決めていくのは大変だろうなと思った。今度から僕の給食代が無料になると母がよろこんでいたけれど、それだって、大切な税金を有効に使うため、たくさんのお金が議論して考えてくれたことを僕たち子どもも知っておくべきだ。

今回、税について考えたら、いつの間にか社会のしくみを考えていた。税は社会をつくるための資金だからだ。僕も大人になったら働いて税金を納めたいと思うが、どんな種類の税を集め、どうゆうことに使っていくのか、世代が変われば僕たちに迫ってくる課題になる。他人事ではない。友人が泊まりに来たとき、税の使い道について話してみたら盛り上がった。こうやって税や社会についての話し合いの輪が広がって助け合うことができたら、もっといい社会になるのではないかと思った。

## 《東京納税貯蓄組合総連合会長賞》

当たり前を支えていた税金

八王子市立みなみ野中学校

三年 伊藤 菜月

私は現在、受験生として高校の見学会に参加しています。見学会での説明で学校生活には入学金や授業料、設備費など多くの費用がかかっていることや、公立高校ではそれらの費用がほとんど税金で賄われていることを知りました。また、私立高校でも東京都の税金から補助が出ていることを知り、税金の役割の大きさを実感しました。

私が見学した都立高校にはドーム型の立派なプールがある学校や木目調の明るい教室の学校などがあり、これらの設備が全て税金で整備されていることに驚きました。現在通っている中学校でも、最近水道が自動になりトイレも新しくなりました。私が所属している吹奏楽部には多くの楽器が揃っており、自分で楽器を購入せずに活動できるのも税金のおかげです。こうした身近なことを意識して考えると、たくさん税金の使われ方が思い浮かびます。教科書や机、図書館の本なども全て税金によって購入されており、税金のおかげで自由なく学校に通うことができているのだと今さら気づかされました。

今年、地域の夏祭りに参加した時、市長さんが来てお話を

されてきました。二学期から市内の小中学校の給食費が無償化されることや、今後一～二年の間に体育館の空調を整えることなどを力強くお話されてきました。体育館は子供達のためでもあり、災害時の避難場所としてみんなが利用する時のためでもあるとおっしゃっていました。体育館の空調は私が学校にいる間には間に合いません。でも今までも税金を使つて一つづつより良い環境に整えてくれたから今の学校があるのだと分かりました。今の私が払う税金は消費税くらいでそれすらもつたいたなく感じていたけれど今後はこれでみんなの生活がどんなふうになるのかなと少し楽しみに思える気がします。

先日行われた都知事選挙では、両親や兄が熱心に候補者の話を聞いていたため私も自分なら誰に投票するかを考えるようになり、投票にも同行しました。選挙権を持つ四年後までに、税金をどう使ってくれる候補者なのかを見極められるように、関心を持ち続けたいと思います。

今回の税の作文を書くにあたって、税金から受け取っているものに気づくことができました。私が思いつくことは学校生活とその周りの狭い範囲のことだけですが、実際にはもっと多くの税金がより良い生活のために使われていることを考えると、感謝の気持ちが湧いてきます。これまで見えなかった税金の恩恵が見えるようになり、とても良い機会となりました。これからも税金の使われ方に関心を持ち、感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいと思えます。

マイナスの税金 プラスの税金

八王子市立四谷中学校

三年 小沢 琴音

税金に不満を抱いている大人は多いのではないだろうか。私は、母が払わなければならぬ税金の多きにため息をついているところを見たことがある。なぜこのようなことが起きるのかというと、私は、人々が税金は負担だと考えていることが原因だと思う。税金は、日本に住むすべての人が、普通に暮らしていくうえで、欠かせないものだと思うが、その負担が税を払う人々を苦しめているのだと感じる。そんな中で、どんなふうに税金と関わっていくべきだろうか。

そこです、自分と税の関係について考えた。私は税金にお世話になっている側だ。日本には、法人税、住民税、事業税など数え切れないほどの税金があると以前学んだ。そんな税金の中で、私が払っているのは、消費税だけだ。だが、私がか、学校に行つて勉強したり、病院に行つて少しの金額で診療してもらわれるのに必要な税金は、私が今まで消費税払ってきたお金の比ではない額だと思う。私がどれだけ消費税を払えば、その額と同等になるのだろうか。独立して、働いたり、家を持つたりしていい、私のような学生や高齢者たちが生きるための税金分の負担が、大人たちにのしかかっている。

るということに私は申し訳無きを感じる。

けれど、私が今まで払つてきた税金もわずかながら、誰かが生活するための助けになっているのではないだろうか。皆与えているだけでなく、少なからず、誰かに支えられて生活できている。人々を繋いでいるのは他でもない税金だと思う。だから、私は税金を「恩返し」として払いたい。税金は大きなサイクルになって、誰かのため、誰かのためと恩返しを続けているのだと思う。税金は払わなければいけないものだ。だからこそ、考え方を変えて、少しでもプラスの思考で互いを支え合うことが、よりよい社会への第一歩なのだと思う。

ただ、払う側だけでなく、税金によって賄われているものを大切にすると、与えられる側の気持ちも大切だ。中学校にあるものは、ほとんどが税金で買われているものだが、私は、生徒たちがそのことに気付いて使っているとは思えない。誰かのお金によって、今の環境がそろっているというところをもっと自覚して、大切に使わなければならないと思う。

税金を払うという行為は、払う側と与えられる側の気持ちが少し変わるだけで、マイナスではなく、プラスの行為になる。ひとりひとりがそれに気付く、よりよい社会になっていくように、この国で生活する一人として、努力していきたい。

## 《東京納税貯蓄組合総連合会長賞》

お互いを支え合うための税金

八王子市立菅上中学校

三年 降矢 恰奈

私達の身近にある税金は費用対効果が高く非常に良いものだと思います。

私は普段の買い物で消費税を払います。百円のものが百十円になることに本当に税金は必要なのかと考えたこともあります。ですが実際、学校の校舎や体育館、教科書やクロムブックなどの当たり前のように使っているものが税金で成り立っていることを知りました。他にも、道路や信号など身の周りの大切なものに税金が活用されています。私達が払っている税金に対して受けているサービスの多さを実感し、この大切さに気づきました。

そんな税金には多くの種類があり一つに消費税があります。商品を買うときにつく税で私も何度も払ったことがあります。小さい頃は、消費税を知らず母が商品をレジに通した時に自分がみた値段より高くなっていることに疑問を持っていました。ですが、中学生になり自分で買い物をするようになっていきました。最近では消費税を払うことが当たり前のようになっています。ですが、最近税金の大切さを実感することがありました。

二〇二四年一月一日に能登半島地震がおこったことです。当事者でもない私はテレビやネットの記事で状況を知ることし

かできませんでした。被害の大きさを知りましたが私が直接的にできることはありませんでした。そんな中、ある疑問を抱きました。現地で援助をしている自衛隊の援助金はどこから出ているのだろうかということでした。調べてみると、税金が使われていました。能登半島地震では約千人の人々の命を救い、食を届け給水支援などを行っていたそうです。直接関わることができないことではないかと思っていました。ですが、私たちが払っている税金で人々の命が救われていることを知り、この事実をもっと多くの人々に知ってほしいと感じました。もし、税金がなければどうなってしまうのでしょうか。おそらく、災害が起こった場合でもこのような支援は受けられなかったでしょう。

また、災害減免法があることを知りました。災害によって住宅や家具などに損害を受けた場合にこの法によって所得税が軽減免除されるといふものです。税金に不満を持っている人は一度考えてみてください。実際に災害に遭った時自分たちが払っている税やこのような法によって負担が減ります。

こうして、私たちの暮らしは税金によって支えられ時には命を救うこともあります。税金への不満をもつ前に税金の目的や本質を理解してくれる人が増えると嬉しいのです。

税金は無駄な出費ではなくお互いを支え合うための一つの方法ではないかと私は考えました。私たち自身、支えられるものでありみんなを支えるものでもある素晴らしい制度です。私を今まで支えてくれた、そしてこれからも支えてくれるであろう税金を納めてくれた人に感謝し、大人になったら社会を支えられる立派な人になりたいです。

祖父と二緒に泣いた日

八王子市立檜原中学校

三年 松本 聖天

僕の祖父は、いつも僕に優しく、たくさんサプライズをくれる大好きな存在です。手先がとてもし器用で、竹や木を削ってプロペラ飛行機や、僕の好きな車の模型を一緒に作ってくれるので、週末に祖父に会う事がとても楽しみでした。

しかし、ある日の事です。

僕は祖父に学校での出来事や、先生に褒められた事を話していました。祖父は、笑顔で聞いてくれてたものの会話が噛み合っていないように感じました。何度かくり返し話すと、祖父は「ごめんね、もう一度言ってくれるかな?」と困ったように笑顔を僕に見て僕はハッとしました。

それまで気付かなかったのですが、祖父は耳が遠くなっていたのです。食事の時など、祖母が祖父の耳の近くで話している姿は何回か見た事がありました。僕が普通の声で話しているのもうまく聞き取れない事が増えていたのです。その事に気付かずには僕は普通の声で話していたのです。その事に気付いた時、僕は切ない気持ちになりました。祖父が僕の話の聞きとれず、寂しい思いをしていたかもしれないと考えると、胸が締め付けられるようでした。

その後、両親と相談して、祖父に補聴器をプレゼントする事にしました。

補聴器を付けた祖父は、最初は少し慣れない様子でしたが、徐々にまた僕達との会話を楽しんでいるように見えました。

祖父が笑顔で、「前よりもよく聞こえるようになったよ。聖矢の声は、お父さんの声に似てきたな」と目をうるませて言ってくれた時、僕も胸が熱くなり、涙がこみ上げてきました。その時、僕は補聴器がとてもし高価な物だと知り驚きました。更に調べてみると補聴器の費用の一部は税金で補助されると知りました。補聴器だけでなく、耳が遠い人たちの為の様々なサポートが税金で賄われています。

僕は、税金の大切さに改めて気付かされました。税金があるからこそ、祖父のように耳が遠くなってしまった人でも、また元気に日常を過ごす事ができるのだと思いたった。

この経験を通じて、僕は税金が単なるお金の問題ではなく、社会の中で困っている人々を支える大切な役割を果たしている事に気付きました。税金による支援があるからこそ、祖父のような人たちが少しでも安心して生活できると理解したのです。

将来、自分が大人になった時には、税金をしっかりと納めて、祖父のように困っている人々を支える一員になりたいと強く思うようになりました。

## 《八王子税務署長賞》

当たり前は当たり前じゃない

東京都立南多摩中等教育学校

三年 新岡 愛穂

病院に予防接種を受けに行った。終わったあと、母がお金を払っている様子がなかったの、「予防接種って無料なの?」と聞いてみた。すると母が、「そうよ、あなたに会ったこともない誰かがお仕事を頑張って、そのお金で今、予防接種を受けることができたのよ。」と教えてくれた。私は小さいながら衝撃を受けた。誰かは分からないけど、その人のおかげで病気を予防しやすくなった。それってすごいことだ。何だかどこか遠くの誰かに支えられているような気持ちになった。そして、一生懸命色々なことを頑張って私もいつか誰かを支えたいと思った。

あれから何年かがたった今、私は中学生になり、中学校に通っている。なんと公立中学校の生徒一人に使われる年間公費負担額は百万円以上だそう。これにも予防接種と同じように誰かの税金が使われているのだ。そう思うと、私が学校に行くことができてるのは決して当たり前ではない。整備された道路を歩くことができる。信号があるおかげで交通安全が守られている。上下水道が整備されているおかげできれいな水を使うことができる。農業、漁業の支援があるおかげ

で安全な食べ物を食べることができる。怪我や病気をしたら病院に行くことができ、緊急時には誰でも救急車を利用できる。このように様々なところに当たり前のように思えて、当たり前ではないことが隠れている。そして、これらは税金によってまかなわれている。税金には働いている人の所得にかかるもの、自動車を所有している人にかかるもの、財産をもったときにかかるものなど様々な種類がある。もちろん私たちが買い物をするときに払う消費税も含まれている。税金を払うときには、その税金がどこでどのように誰のために使われるかは分からない。しかし、自分が払った税金が一人でも幸せにしていることはきつと確かだ。どこか遠くの誰かを自分の税金で支えることができる。そう考えると税金との向き合い方が変わってくると思った。

今私が使っている教科書、これも誰かが私を支えてくれているおかげでここにある。さっき私がお菓子を買ったときに払った消費税、これもきつと誰かを支えることになる。そうやって日本にいるすべての人が税金によって支え合うことで生きている。税金に対して悪いイメージを持つ人が多いが、税金を「人と人をつなぐ輪」のように考えることもできる。私は今学校に行けることに感謝して、一生懸命勉強したい。そして、将来たくさん働いて税金を払い、多くの人を支えたい。

## 《八王子税務署長賞》

助け合って成り立つ社会

八王子市立城山中学校

三年 吉香 咲那

私は今まで税金の種類は消費税しか知らなかったため、税金の中にも色々な種類があることや税金がどのようにして使われているのかほとんど分かっていませんでした。しかし、祖父の病気をきっかけに消費税以外にもたくさん種類があり、どれも国民一人ひとりのために役立てられているということを知りました。

私の祖父は難病を患っていました。まだ治療法が見つかっていない病気で、病気の進行を遅らせる薬しかありませんでした。私は祖父が言っていた「この薬は国の補助がなければ使い続けられない。」という言葉が気になり、その薬の領収書を祖母から見せてもらいました。すると実際に支払っている金額は一ヶ月千円でしたが、補助が無い場合の合計金額はとも高額で毎月支払い続けるには難しい金額が記されています。(なぜこの高額な薬を国が補助してくれるのだろうか?) と思い調べてみると、「難病医療費負担制度」という患者の医療費負担の軽減を目的とした、治療に関わる費用の一部を助成してくれる制度があることを知りました。さらに調べていくと「子供医療費負担制度」という、私たち子供の医療費

を自治体が負担してくれる制度があることも知りました。もしこれらのような制度が無く、全ての治療費が自己負担だったら、体調が悪いときやけがをしてしまったときに病院に通いづらくなってしまい、治るはずの病気や怪我の治療を金銭的な理由で受けられないかもしれないかもしれません。もちろん、私の祖父の薬も使いつづけることはできず、病気の進行具合がもつと早まっていたかもしれないかもしれません。私自身も定期的に耳鼻科に通うのですが、(この制度があるおかげで通いつづけられるのだな。)と気づきました。そして、税金は私たち一人ひとりの健康のためにも役立てられていることを実感しました。

小さな子供から高齢の方まで、すべての国民が不自由なく安心して生活するための税金です。しかし、超高齢社会の日本は今後、今以上に税金が必要になってくると思います。納税者の割合が減少するのに対し一人当たりが納税する額は増えるため、将来私たちが社会人になってどのくらいの金額を納税すれば良いのかといった不安もあります。そのためにも、これからはもつと税について関心を深めていきたいです。働किながら納税することは決して容易なことではありませんが、国民がお互いに助け合ってよりよい生活ができるように、税についてしっかりと理解したうえで納税していきたいです。

## 《東京都八王子都税事務所長賞》

税は昔も今も

東京都立南多摩中等教育学校

三年 長谷川 如音

私の一番好きな教科は歴史だ。この歴史という教科では昔の人がどのように暮らしていたか、や昔どんな人がどんな政治を行っていたか、などを知ることができ、それがこの教科の魅力だと思う。そんな中、どの時代でも「税」に関して言及されていることに気がついた。

中国の歴史書「魏志倭人伝」には卑弥呼が治めていた邪馬台国にはすでに税が存在していた、との記述がある。邪馬台国では税として米などの食べ物納められていたといわれている。この税は国の運営や占いのときに使われていたようだ。これが日本で最古の税だといわれている。

飛鳥時代から鎌倉時代までは「租、調、庸」の税が納められていた。「租」とは米の収穫量の三パーセントを納めるもので、凶作時の非常食として各地に貯蔵されていた。「調」は成人男性にのみかけられた特産品を納めるもの、「庸」は布を納めるものだ。これらは中央や地方の財源として使われていたそうだ。また、「租、調、庸」に加えて「雑徭」という税があった。これは堤防や道路の建設を地方の住民が行うものだった。

室町時代から江戸時代は税の中心が「年貢」で江戸時代に

は一定期間同じ量を納める「定免法」から毎年収穫量を調査して決める「検見法」に変わった。この「年貢」は領主の生活費、兵士の給料、軍事費、道路や橋の建設などに使われていた。

明治時代になると税の制度は大きく変化した。安定した財源を得るために収穫量に左右される米ではなく、お金で納められるようになった。特に「地租改正」によって「地租」という地価の三パーセントを納めるという税があった。これらの税は軍隊の近代化のための軍事費、学校設立のための教育費、交通インフラや行政機関の整備に使われた。

現在、国に納める税金を「国税」と呼び、その中には「所得税」「法人税」「消費税」などの種類がある。これらは年金や子育て支援、医療などに使われている。また、都道府県や市区町村に納めている税を「地方税」と呼び、その中には「住民税」「事業税」などがある。これらは教育や福祉、消防、救急、ごみ処理などに使われている。

このように税金は古代から今現在に至るまで私たちが生きるために欠かせない大切なことに使われ続けている。そして、同時にその私たちが生きるために欠かせないことは国民一人ひとりがお金を貯めたとしてもほとんどできないことだと思う。そんな一人ではできないことも税金を国民みんなから集めれば行うことができる。私は近い将来、税金を納める「納税者」という立場になる。その時に自分が納める税金は一人ではできない大きなことに使われることを自覚し、誇りを持って税金を納めたいと思う。

## 《東京都八王子都税事務所長賞》

税で実現したい夢

八王子市立第七中学校

三年 孫田 央仁

僕が税金で実現したい夢は、「みんなが安心して暮らせる社会を作ること」です。そのためにはいくつかの重要なポイントがあります。例えば、「もっと良い教育をみんなに提供すること」や「地域の活性化を進めること」があります。これらの取り組みを通じて、僕たちの未来をより良くしていきたいと考えています。

まず、教育の向上についてです。今の日本には、学校によって学べる内容や質に差があります。これでは、家庭の事情や住んでいる場所によって、子どもたちの将来が決まってしまうことになります。だからこそ、税金を使って、どの学校でも同じように質の高い教育が受けられるようにしたいです。例えば、新しい本やタブレットなどの学習道具をそろえたり、教師の人数を増やして授業をもっとわかりやすくしたりすること、みんなで平等に学べる環境を作ることができそうです。また、特別な支援が必要な子どもたちにも、もっと手厚いサポートができるようにしたいです。そうすることで、どんな子どもでも自分の力を最大限に発揮できる社会になると思います。次に、地域の活性化についてです。最近、僕の住んでいる

町でもお店が減ったり、人が少なくなったりしていて、ちょっと寂しいと感じることがあります。そこで、税金を使って地域を元気にする取り組みをしたいです。例えば、地元の特産品をもっとPRしたり、新しい観光スポットを作ったりすることで、地域に人を呼び込み、地元の経済を活性化させることができます。また、地域のイベントを増やして、みんなが集まる機会を作ること大切ですね。こういった取り組みを通じて、地域の人々がもっとつながりを感じられるようになり、安心して暮らせる町になるといいと思います。

さらに、税金の使い道について考えることは、僕たち一人ひとりが社会についてもっと考えるきっかけになると思います。税金は僕たちの生活を支える大切なお金で、その使い道に関心をもつことは、将来の社会をどう作っていくかを考えることにつながります。

最後に、税金を使って実現したい僕の夢はみんなが平等に教育を受け、安心して暮らせる地域社会を作ることです。税金が僕たちの未来を形作るための大切な資源であるからこそ、その使い方をしっかり考えることで、より良い未来を作っていくことができるのではないのでしょうか。

## 《八王子市長賞》

期待のサイクル

東京都立南多摩中等教育学校

三年 重國 莉子

新学期が始まった。私はいつも通り、真新しい教科書に名前を書いていく。そのとき、小さな文字が目に残った。「この教科書は、これからの皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」どうやら、教科書は無償で私たちの元へ届いているらしい。もし、教科書が有償になってしまったらどのくらいの値段がするのだろうか。そう思った私はすべての教科書の定価が書いてある「教科書定価表」というものを見てみた。そこに書いてあった、中学三年生の私が使っている教科書の定価の合計は五九八六円。私一人にかかる教科書の値段がこんなにも高いのだから、学校全体、いや、全国の学生の教科書に使われているお金はとても大きいのだろう。

さて、私たちが払わない分のお金はどこから出ているのだろうか。教科書のお金は、「文教及び教育振興費」の「教育振興助成費」というところから出ている。計算したところ、このお金は、国家予算の約二パーセントを占めていることが分かった。そうすると、教科書は国のお金によって発行されているということになる。では、国のお金はどこから出ているのだろうか。その収入源が、「税金」なのだろう。私たち

の両親や近所の人など、働いているすべての人たちが、稼いだお金の一部を税金という形で納めている。その税金があつて初めて、私たち学生は勉強することができるのだ。

さらに調べていくと、教科書が無償で手に入るということは日本でこそ当たり前だが、そうではない国もあるということを知った。ブラジルでは、毎年進級する度に、自分で書店へ行って教科書を買うのだそうだ。裕福な家の子は毎年新しい教科書を買ってもらえるのだが、貧しい家の子は上級生からお古をもらうことになる。誰でも、次に使う人のことを考え、丁寧に教科書を扱うそうだ。日本では自分のものという意識が強い教科書だが、国が違つと、自分のものではなく、次に使う人がいるもの、上級生からもらうものなどという認識であることに驚いた。税金がたたくさんの教育費に充てられている日本に生まれ、自由に勉強ができる環境を与えられているということとは、とても恵まれていることなのだと思惑した。

あと七年もしたら、私の立場は税金の恩恵を受ける立場から、税金を納める立場に変わる。教科書は私たちが学習を進めるうえで欠かせないものだ。しかし、未だにすべての人に与えられるべき教育の機会を、教科書が有償であるがために奪われている人たちがいる。では、税金によって教育を受けられた私たちには何ができるだろう。大人になって税金を納めることにより、さらに次の世代へつながる学習のサイクルが生まれる。これからの未来のために、私は時折、教科書のあの一文を思い出すようにしたい。

## 《八王子市長賞》

税金がある意味

八王子市立打越中学校

三年 細川 直大

夏休みに、宿題をしようとしたと社会の教科書を机の上に出したとき、次の言葉が目に入った。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」この言葉は、僕の税金に対する考え方を一変させるほどの大きな衝撃を与えた。

コンビニやスーパーで商品を買うたびに支払う消費税。金額を見ると「消費税が無ければ、もっとたくさん買えたのに」と、僕にとって消費税は「取られる」お金であり、迷惑な存在だった。しかし、教科書の裏側に書いてあったこのメッセージが、税金の重要性を気づかせてくれた。

税金の使い道として、僕たち中学生にとっていちばん身近なものは、教育費だと思う。僕は今年度で中学校を卒業し、義務教育を修了するが、この九年間にかかる教育費のうち、公費負担額は、東京都の場合、約千三十八万三千円にもなるそうだ。これが、何百万人分ともなると、その額は計り知れないほどになる。

また、税金は医療や介護、年金、公共事業など、生活に不可欠な様々な場面で利用されている。体が弱く、よく病院に

行く僕にとって、医療費の負担が小さいというのは、とてもありがたい存在だ。この作文を書くために調べるまでこのことを知らなかった。それを知ったとき、今までお金に困ることなく、すぐに病院に行けてくれたことに対する感謝の気持ちと共に、こんなにお世話になっている税金を知らずに「迷惑」と思っていた自分を恥ずかしく思った。

今までの自分自身の生活を振り返ると、税金はこの社会を成り立たせる上で、不可欠な存在だと改めて感じた。今、ここにある生活環境は、当たり前ではなく、税金によって支えられ、自分の知らない誰かと助け合って成り立っているのだ。僕が今できる納税は消費税だけかもしれないが、それを通して社会全体の発展に役立っていると思うと、少し誇らしい気持ちになった。

税金がなければ、楽しい学校生活も安心して病院へ行けることもないだろう。僕の税金の見方も「払わなければならないもの」から「誰かの幸せのために役立つもの」へと変わった。これからも、税金が僕たちの生活を多岐にわたって支えてくれていることを意識し、消費税を払うことを通して、社会に貢献していきたいと思う。そして、この恵まれた環境に感謝し、「税金のおかげ」という自覚をもって、日々の学習に全力で取り組んでいきたいと思う。

## 《八王子市議会議長賞》

税金って実は面白い？

八王子市立松木中学校

三年 加藤 碧唯

皆さん、税金と聞くとどんなイメージを持ちますか？堅苦しい、面倒、払いたくない、そんな感じでしょうか？実際、私も税金は出来るなら払いたくないなと思っていました。ですが、そんなイメージを変えるほど、世界では税の面白い話で溢れているのです。

例えば、昔々、ある国では「窓税」というものが存在したそうです。窓の数が多いほど税金が高くなるシステム。そのため人々は窓を塞ぎ始め、暗くて風通しの悪い家が増えてしまったようです。なんだか笑ってしまいますよね。面白い税金は昔だけの話ではありません。現代でも面白い税金というのは存在しています。例えばイギリスには、「テレビ税」があります。テレビを持っていないかどうかで課税されるのですが、実は、テレビを持っていないけどパソコンやスマートフォンでテレビ番組を見ている人も課税対象。ちょっと理不尽な気もしますが、時代の変化に対応した税金とも言えるかもしれません。

さらに、税金は意外なところに使われていることもあります。私たちが通っている学校の校舎や、公園、道路なども、実は税金で作られているのです。税金のおかげで、私たちは

安全で快適な生活を送れているのですね。もちろん、税金を払うという事は楽しいことではありませんが、そのお金が私たちの生活を支えていくことを考えると、少しは気持ちが変わってくるかもしれません。税金についてもっと知れば、意外に面白い発見があるかもしれませんよ。さて、最後にちょっと変わった税金を考えてみましょう。もし、自分が税金を新しく作る権限があるとしたら、皆さんはどのような税金を作りますか？

私は「ペット税」を考えてみました。ペットを飼っている人には、ペットの種類やサイズによって税金を課すのです。そのお金は、ペットの医療費や、飼育費に充てたり、動物保護施設の建設や整備などにも役立つことが出来るのではないかと考えました。皆さんも、自分だけのオリジナル税金を考えてみてください。きっと面白いアイデアが浮かぶはずです。いかがですか？税金って、意外と面白いと思えるものです。税金というのは、私たちの生活にとつて必要不可欠なものです。税金がないと、今は無料で運んでくれる救急車も、お金がないと運んでくれなくなったり、学校に行く時毎日通る信号もついていなく、道はポロポロ。交通事故にあつたり、地震や台風の被害にあつても助けてもらうサービスはすべて有料：なんてことになってしまいます。税金を払うのは面倒くさいことですが、皆さんの協力があるから、今の当たり前の日常が過ごせるのです。

税について、最初から重たく考えるのではなく、面白いな、私たちは国を支えている一員なんだと考えていってほしいな、と思います。

## 《八王子市議会議長賞》

人民の、人民による、人民のための税金

東京都立南多摩中等教育学校

三年 細井 千佳

もしも税金がなくなったら。あなたは考えたことはありませんか。税金がなくなれば、消費税も払わなくて済むから、モノが安くなる。他にもさまざまな税金がなくなったら、家庭で自由に使えるお金が増えて、好きなものを沢山買ってもらえる。このように、思っていませんか？最近までの私は、思っていました。税金なんて、なくなってしまう方がいいのにと。しかし、税金について調べてみると、それは大きな間違いだと分かりました。

では、税金がなくなると実際どうなるのか。例えば、今は救急車を呼べば無料で病院に運んでもらえるけれど、お金を払わないと運んでもらえない。学校に行く時、毎日通る道路の信号もついていないし、道もポロポロ。そもそも、学校の教科書や机などの費用の関係で、あなたは教育を受けることすらできていないかもしれない。ごみ収集車だって来なくて、街中ごみだらけ。交通事故にあったり、地震や台風の被害にあっても、助けてもらうサービスは全て有料なこともありえます。税金がないと、このような毎日当たり当り触れている公共サービスというものがなくなってしまうのです。

私はこの事実衝撃を受け、気づかず生活していた自分を恥じ、社会への関心が足りていなかったと反省しました。同時に、税金はなくてはならないものなのだ強く感じました。

けれど、最近よく見聞きする税金のイメージはマイナスです。私の今までの税金への捉え方も、このイメージに影響されています。私は今までの税金への捉え方も、このイメージに影響されています。これほど社会をより良くしてくれるシステムがなぜ悪者扱いされるのか？それはやはり、税金についてよく分かっていない人も多いからではないかと私は思います。税金について知らなければ、「税金なんて義務だから払っているだけ」という気持ちになり、税金を負担に感じ、良いイメージは持てないでしょう。

だから、もう少し税金の働きについてよく知ってもらい、身近に感じるができるようにするべきです。税金は、自分たちが払い、自分たちに還元される為に使われるもの。使道は、国民が選んだ国会、地方議員を通じて、国民自身で決めているといえます。みんなで暮らしやすい環境をつくっていく為により自分たちの意見を反映させていくことが大切です。税金とはつまり、「人民の、人民による、人民のための税金」なのです。

私もあと三年で選挙権を得ます。だから、それまでにさらに税金についての学びも深めることで、自分の考えをしっかりと反映させられるようにしていきたいです。

## 《八王子市教育委員会教育長賞》

実はすごい「税金」

八王子市立菅上中学校

三年 稲福 ななみ

「税金」。社会に出たことのない子供の私にとって、それはよく分からないマイナス側に分類される言葉だった。大人が一生懸命働いて税を納めている様子を見て、「どうして税金が世の中にあるのだろう」と疑問に思う時期もあった。

しかし、私も中学三年生になり、大人へとどんどん近づいている。そこで、私と税金には、どのような関わりがあるのか、一度しっかり調べてみようと思った。

まず最初に頭に浮かんだのは、「教科書」だ。教科書協会のHPにのっている定価表から、今年一年間の教科書の合計金額を調べてみた。十六冊で合計一〇四二円。義務教育の九年間、毎年当たり前のように一万円負担してもらえるのはありがたいことなのだと思った。日本中に居る九三万人近くの小中学生一人一人の一万円を賄える税金って、すごい。

二つ目に「図書館」が頭に浮かんだ。私は読書が大好きなので、よく図書館に行って文庫本を借りる。ここで文庫本一冊を七〇〇円とし、毎月六冊借りた時の一年間の合計金額を調べてみた。七〇〇×六×十二で合計五〇四〇〇円。かなりの金額だ。図書館の本が税金で賄われているおかげで、私は

多くのことを知り、色んな世界を体験することができている。「知る権利」を尊重してくれる税金、やっぱりすごい。

調べてみると、税金は私たちの日常の中で大きな役割を担っていることが分かった。それどころか、さらに調べていくと、税無くして私たちの生活は成り立たないことも分かった。

もし税金が無くなると、消費税や所得税が無くなる分お金は手元に残るが、医療や教育を受けるのに、大金を払わなくてはいけなくなる。警察に通報するのにもお金がかかる。図書館や市民ホール、公園等の公共施設も有料化し、道の整備もされなくなってしまう。税金は、人々の生活や社会を成り立たせるために陰ながら働く、「縁の下の力持ち」なのだということが分かる。

改めて調べてみると、税金はマイナス側に位置する遠い存在などでは決して無く、むしろ私の日常を支える限りなく近くに存在だと感じた。当たり前を支えてくれる税金はやっぱりすごい。そして、一生懸命働いて税金を納める皆さんの方々もすごい。これから税金で賄われたものを使用する時は、感謝を込めて大切に扱いたい。そして、大人になつて税金を納める年齢になった時は、払うべき額をきちんと払う、社会の一員として義務を果たしたい。

## 《八王子市教育委員会教育長賞》

より良い未来につながる税金

八王子市立第四中学校

三年 森井 花音

ニュースで八王子の市立小中学校などにおいて、令和六年の二学期以降、給食の無償化がスタートするとの話を聞いた。都の支出金など補助制度を活用し、約十億二千万円の事業費を計上とのこと。事業費のうち、国が三億四千万円、都が五億六千万円をそれぞれ補助し、市は二億二千万円を負担することのこと。一年を通じて、無償化した試算では、中学生は約六万二千円分の負担減になるという話で、どこの自治体でも同じようにしているわけではないようなので、とてもありがたい話だと思う。

私は今年、給食委員長となったが、地域の中で、自分たちの中学校の残食数が一番多いという話を聞いた。人によってアレルギーなどで食べることができない場合もあると思うけれど、そういった理由ではなく、好みなどで食べない人もいるようだ。

今回の給食の無償化は、国や都や市が負担していて、そのためのお金は色々な形で納めている税金から出ている。それなのに、食べ残しを当たり前のようにしているのでは良くないと思う。

学校でもどのようしたら残食を減らすことができるか、考えるような話があり、委員会では、好き嫌いも含め、食べられない食材がある場合は、あらかじめ自分で減らすよう声掛けをしたり、全校集会でも給食費もかかっているのだから、食品ロスを減らそうと呼びかけたりしたが、あまり効果は見られなかった。

自治体も経済的な理由など色々考えて、無償化にしてくれるのだと思うけれど、そうした取り組みをしてもらっていることに對して、あまり関心もないし、それをありがたと思う気持ちも欠けている生徒が少なくないように感じる。

学校でも改めて、税金について学んでいく機会を作っていくことも必要なのだろうと思う。今は動画の配信など色々な方法で出ていて、ゲーム形式で説明があったり、楽しめるような形で説明がされているものも増えてきているので、そうしたことを実際に勉強していくことで、税金の大切さを学んでいくことにつながり、それが、今回の給食についても、無駄にせず、残食を減らすような意識につながっていかれると思う。

私は自分が働いてお金を得ているわけではないため、働くようになったらしっかりと税金を納め、限りある税金が必要とされているところに使われてほしいと思う。

## 《八王子商工会議所会頭賞》

その千円は何に使われるのか

八王子市立菅上中学校

三年 小河原 佑

私は、消費税以外の税について何の種類があるのか知らなかったです。そこで他にどのような税があるのか調べました。すると今年から新しく徴収される税があることを知りました。私も徴収されることになるので、どのような税に興味を持ちました。

それは森林環境税です。この税とは、二十五年にフランスで開かれたCOP二十一で採択された「パリ協定」の枠組みのもと、温室効果ガスの排出削減目標の達成や災害の防止などを達成するため、二十九年に法律が成立しました。今年度から国税として、国内に住所がある人から一人千円、住民税に上乗せする形で「森林環境税」が徴収されます。納税者は約六千万人とすると、税収は一年で六百二十億円に上るといわれています。その税収は全額が「森林環境護与税」として全国すべての都道府県や市町村に配分されます。先行して二十九年年度から、国庫より交付金として配分が始まっています。日本は国土面積の七割を森林が占めています。これは、世界第二位の森林大国です。この税を導入した理由については「森林を守ることは、国土の保全や水源の保護など国民

に広く恩恵を与えるものだ」と説明しています。

制度が始まった二十九年年度からの三年間で、全国の市町村に配分されたのは約八百四十億円です。しかしその四十七パーセントに当たる三百九十五億円が活用されていませんでした。人口によって交付額が決まるため、私有林や人工林の面積がゼロの東京・渋谷区も、昨年度までの三年間で四千万円あまり交付されていますが、全額を基金として積み立てています。このように使い方がわからずにとりあえず基金として積み立てている自治体が多いようです。一方で有効に活用している自治体もあります。活用例としては、林道の整備や林業の担い手確保のため、防護スボンや安全靴、ヘルメットなど、作業に必要な物品の購入に使われています。また、小中学校の建設に木材を多く使用している自治体もあります。なぜ木材を使うのかというと、精神に良い影響を与えるからだそうです。

私は森林環境税について、有効に活用されるなら賛成です。しかし問題もたくさんあるので改善していった方が良いと思います。私の考えは四つあります。一つ目は、森林の面積によって交付額を決めることです。二つ目は、人口によって交付額を決めないようにすることです。三つ目は、具体的な使用目的のある自治体に交付することです。四つ目は、林業の技術者を育成して生活の保障をすることです。これらをすれば、温室効果ガスが削減ができ、国民にも恩恵を与えることができると思います。そうならば、千円を徴収されても問題はないです。

## 《八王子商工会議所会頭賞》

広がる格差、防いでくれる税

八王子市立横山中学校

三年 山田 懿瑄

今回の税の作文を書くにあたり、私にとって身近な税とそうでない税とに分けて調べた。私に縁遠い税の中に、「相続税」があった。そこでふと思ひ当たることがあり、より詳しく調べてみようと思った。

私は、父が中国人ということもあり、幼い頃を中国で過ごした。父には親戚が多く、不幸があるたびにいわゆる「遺産相続」でもめている様子が、幼いながら印象として残っている。ところが、日本に来てからはあまりそういった光景をあまり見えない。その違いはなんだろう、と不思議に思っていたが、「相続税」というものをつながら感じて興味があった。

相続税とは、相続が発生した場合に、相続する財産の状況に応じて支払う税と定められている。国税収入にも三・五パーセントを占めている。相続する財産の一部を納め、社会のために利用することで、資産の再配分の機能を持っている。また、超過累進課税と呼ばれる、区分ごとに税率を適用することで、生まれた家庭の経済状況による差を縮小させ、格差の固定化を防止する機能も持っている。しかし、日本の相続税は最大で五十五パーセントと、世界トップクラスとなって

おり、最大課税の場合だと半分以上を税金として納めなければならぬことが分かった。

一方、中国には相続税がなく、財産はすべて相続人に受け継がれる。そのため、「官二代」や「富二代」のように、官僚や富裕層の子孫を揶揄するかのような言葉まであるそうだ。中国以外にも相続税を導入していない国は日本の周りにも少なからずある。相続税がないことで、富裕層の海外移住を防いだり、自国に呼び込んだりといったメリットがあるようだ。

では、日本での相続は不利なのかと思つたが、日本の相続税は最大税率で考えれば世界上位ではあるものの、控除や債務、葬儀費用の差し引きなどを行つたうえで、超過累進課税制度により、実際の課税対象は一割にも満たないことが分かった。さらに、所得格差を表す指標の一つであるジニ係数を見ると、日本は相続税のない国と比べて低いことが分かった。

もちろん、相続税のみが格差を縮めているわけではないと思うが、経済の格差が少ない分、相続に躍起にならず、相続税があることでさらに落ち着いた遺産相続になるのだろうかと思う。近年、中国でも格差が広がり、相続税の導入が検討されている。児孫のために美田を残さず、という言葉もあるように、日本の国民性もあるのかもしれないが、資本の再配分、格差縮小のためにも税金というシステムが働いていることを今回知ることができた。相続税以外にも、様々な税があり、それぞれが国によって異なることもわかり、税に興味を持つきっかけとなった。今後も他国と比較しながら調べていきたいと思う。

## 《東京税理士会八王子支部長賞》

見直しませんか、税のあり方

東京都立南多摩中等教育学校

三年 砂子 葵

税金ほど私たちの暮らしに欠かせないものはないであろう。私たちが健康で快適に過ごしている背景には、必ず税金が動いている。上下水道や道路など基礎インフラの整備はもちろん、教育支援や社会保障まで。国民全員が出し合って集められ、国が代表して「国民のために」使われる。国民は「義務」として納める必要があり、一方国は責任をもって意義のある消費をしなければならない。

そんな国家の維持のためには欠かせない税金だが、数々の問題点を抱えている。代表的なものは税金の「無駄遣い」であろう。公共サービスに使われるものはまだしも、使われ方が不透明のまま闇に消える金額には目を見張る。例えば、二〇二〇年度決算では総額約二千億円の「無駄遣い」が指摘された。社会情勢に応じた有意義な用途を行政の中で考え、国民に提案するなどの対策を講じる必要があると私は考える。ただ、国が国民のよりよい生活のために税金を使っているのは事実であり、様々な観点での使用があつてこそ、私たちの生活は成り立っている。今後の改善に期待したいと思う。

このように、国家の税金の使い方に関して大きな問題がある。しかし、私たち中学生にも見直さなければならぬ点がある。

ある。あなたは教科書を大切に扱っているだろうか。先述したように税金は子供の教育のためにも使われ、公立学校の設立のみならず、机や椅子、教科書など学習用品の購入に充てられている。税金が生徒一人一人のために使われているというのに、「表紙が破れてしまった」「机を傷つけてしまった。」という声が後を絶たない。税金は、将来の日本を担う子供たちに対する「投資」である。私たちの将来のために稼ぎの一部を提供してくれているのだ。だからこそ、学習用品の扱い方を見直し、労働力に見合った勉強と飛躍をするべきではないだろうか。実際に小学校の教科書には、「税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」とある。行政の問題点について嘆く前に自分の意識を変える必要がある。

このような税金に対する「改革」があつてこそ、将来の社会に適応したよりよい社会が形成される。この状況が続けば、必ず財政状況が回復不能になってしまうだろう。お金の巡りが悪くなる前に、国家を含む全員が税金との付き合い方を見直すべきである。また、今日の世界では、生活が豊かになった反面、大規模な問題が数えきれないほど生じている。今後、そのような問題に税金を回す機会が増えるかもしれない。それに応じた増税により、国民の負担が大きくなる可能性もある。そのような状況になったとしても、国民と国家が団結して乗り越える姿勢が大切である。戦争や震災からの復興など、激動の時代を日本は経験してきた。税に関しても同じことが言えるのではないだろうか。身近な税からより進化した日本を創っていききたいと思う。

## 《東京税理士会八王子支部長賞》

不便さから気付いた税金の大切さ

八王子市立松が谷中学校

三年 山中 快志

サッカーの試合で足を怪我し、病院に行くと、全治二週間と診断され、しばらくギブスをはめて生活することになった。ギブスをはめて歩くようになると、ちよつとした段差や階段でつまずくようになり、とても不便に感じるようになった。一方で、段差のないスロープや階段の手すりにありがたみを感じようになり、歩道のバリアフリー化の大切さを改めて実感した。また、普段は何気なく利用していたために気付かなかったが、ベビーカーや車椅子を利用する人にとっては、歩道のバリアフリー化はとても重要なことだということにも気付くことができた。

このようなバリアフリー化に深く関係しているお金が税金だ。平成一八年に高齢者や障がいを抱える人が、便利かつ安全に建築物を利用できるようにするバリアフリー法が制定され、建物や交通機関のバリアフリー化が進められ、その費用に多くの税金が使われた。

また、個人が居住する住宅などのバリアフリー工事を行ったときに、その年の所得税額の一部の金額を控除できるバリアフリー減税という制度があることも知った。障がいを抱えて

いない人にとっては「自分には関係ない」と思うかもしれない。しかし、怪我をしたときや高齢になったときに、バリアフリー化が進んでいなかったから、不満や不安を抱えてしまうと思う。このように考えると、バリアフリー化に税金を使うことは、すべての人にとって必要な使い方ではないかと感じる。

怪我をする前は考えたこともなかった不便さ。それを感じたときに、新たな視点で税金を見つめ直すことができた。「税金」と聞くと、消費税や所得税など負担することばかりが強調されるが、実際はそうではなく、あらゆる角度から私たちの社会を安定させ、充実させてくれている。税金には使われ方が様々あるが、自分に直接関係ないからといってマイナスイメージを作つてはいけない。税金をあらゆる視点から捉え、異なる立場の人を尊重することによって、税金の必要性が見えてくるのではないかと思う。これから先、私は、主権者として、納税者として、税金を様々な角度から見つめ、本来に必要な税金の使われ方を考え、前向きな気持ちで納める大人になっていきたい。

## 《公益社団法人八王子法学会賞》

毎日を守るもの

八王子市立檜原中学校

三年 谷合 優花

学校からの帰り道、道路脇の草が視界に映った。前々から気になっていた丁字路のその草は、夏を感じる頃になるとぐんぐん伸びて、車を確認することさえ難しくなった。私の住んでいる町には住宅地が多く、子供や学生がよく通る道なので危ないと感じていた。

そんな状態を解決したのは、税のお陰でもあった。私は家族に相談し、知り合いをたどり市議会議員の方に相談することができた。そして草丈は、ようやく車が確認できる程になった。

このような道路の整備などには税金が使われていることを知った。

私は今まで、税金を身近に感じるものといえば消費税くらいだったので、これを期に税金について調べてみようと思った。

日本には、約五十種類もの税金がある。では、これらの税金がもし、すべて無かったとしたらどうなるのだろうか？

まず、誰もが使うであろう上下水道。その一部は税金で整備されている。人々が安心して通うための道路や信号も、税金でつくられている。これは私達が安全に生きていく上でとても重要なことだ。

それだけではない。医療や福祉の面でも、税金が役に立つ

ている。病気やけがで病院に行ったときの医療費、ご高齢の方々のための介護や年金にも使われている。

さらに、学校の教育費や教科書、設備などには税金が使われている。すべての人が学びやすいように工夫されているのだと感じた。

もし、それらの税金がすべて無かったとしたら、私たちが当たり前にしてきたことが出来なくなってしまう。税金は、私たちの毎日を支えている。

幸福度の面ではどうだろうか？税金が高い国と低い国の違いはあるのだろうか。

調べたところ、フィンランド、デンマークなどの、税の国民負担率が高い国は幸福度がより高いということが分かった。実際、幸福度上位五ヶ国の平均負担率は五八・九%だ。これらの国は、いわゆる高福祉と呼ばれる国であり、医療や福祉、教育などの面での支援が充実していることで有名だ。

反対に、税金が全く無い国もある。南太平洋に浮かぶ小さな島国で、かつてはリン鉱石の採掘によって栄えた国なのだそうだ。医療費や学費、税金など多くの費用が無料だったが、当然、鉱石は底をつき、経済は破綻してしまっただけで、働くことへの意欲や、国民みんなのために税金を払うという意識を失った人間は、自堕落になり、元に戻るのには難しい。

必ずしも税金が高い国は幸福で、低い国は不幸というわけではない。ただ、これまでの日本国民の毎日を守ってきたのは税金だ。

私は、みんなが互いに支え合い、よりよい社会を作っていくべきだと思う。そのために、税金は欠かさない。私も大人になって、皆の想った税を納められる人になりたい。

## 《公益社団法人八王子法人会長賞》

公正な税でつなげる持続可能な社会

八王子市立中山中学校

三年 湯浅 まひな

今、「SDGS」という持続可能な社会を実現するための十七つの目標があります。私はこのSDGSと税が深く関わっていると考えました。

例えば目標一番目の「貧困をなくそう」という目標です。貧困層は所得の一部が税金として徴収されることでさらに経済的に苦しくなってしまうのではないのでしょうか。もっと世界で税制が公正で貧困層に対する負担が適正であることが重要だと思います。消費税の値上げなども貧困層に重い負担になってしまっていると思います。

また目標二番目の「飢餓をゼロに」という目標があります。この目標のために私達ができること。それは食品ロスをなくすることです。しかし食品ロスをして無駄になるのは食品だけではなく食品を捨てて焼却するのに使う税金です。なのでこの目標は税金を無駄にしないということにもつながると思います。

次に目標三・四番目の「すべての人に健康と福祉を」と「質の高い教育をみんなに」です。現在私達学生の医療費は無償化されています。なぜなら税金が使われているからです。そ

して私達が普段使っている教科書も無償で配布されています。これも税金が使われているからです。このように税金がSDGSに関して上手く使われる場面もたくさんあります。

次に目標十三番目の「気候変動に具体的な対策を」です。気候変動は日本でも深刻で、重要な課題の一つになっていきます。この取り組みとして「環境税」というものがあります。二酸化炭素の排出量に応じ工場や家庭・企業が税金を課されるというものです。これにより多くの国民は地球温暖化についての認識が強くなったのではないのでしょうか。しかし、私は正直にいうと環境税という言葉を知りませんでした。まだ学生だからといえど環境問題は大人だけでは解決できません。すべての人が解決のため意識するべきだと思います。なのでこのような環境に関する取り組みは、もっと学生にも知られるべきだと思います。

今回一部ではありましたが、税金とSDGSの関わりを調べてみていろいろな対策を知ることができました。しかしそこで私が気になったことは、国によって税金のSDGSに関する使い方が大きく違ったことです。日本の方が深刻な問題なのに、日本よりも他の国の方が税金をその問題に使っていたりしました。けれどSDGSは日本だけではなく、世界での目標であるため、もっと世界で税金の仕組みをそろえるべきだと思います。

二〇二三年での今年の漢字は「税」でした。このように日本国民が税に対して興味関心がある今だからこそ、SDGSなどに使われる税金について理解し、その課題と対策を一人一人が把握することが持続可能な社会につながるのではないかと思います。そして私も一人の人間として税金を理解したうえで、このような取り組みを広めたいと思いました。

## 《八王子優法会長賞》

### 震災と税

八王子市立みなみ野中学校

三年 西川 莉琴

この八月、宮崎で地震が起こり、それに続いて神奈川県でも大きな揺れを観測しました。このように日本はいつ地震が起こるかわからない状況にあります。南海トラフへの危機感が高まるなかで、税による震災時の対応に注目が集まっています。

東日本大震災の際、多くの建物が倒壊し、断水、停電など絶望的な状況に置かれたましたが、国による税の支援のおかげで驚くべき速さでほとんどの地域では仮設住居の設立、水道ガス、電気の復旧が行われました。それに加えて、日頃から常備している非常食や毛布などの物資が被災者の生活を支える形になりました。これは日本が税による震災への援助の仕組みを整えているからこそ行えたことです。個人の力だけではどうすることもできない大震災はやってきます。だからこそ、税は自然災害の多い日本にとって必要不可欠な存在であると説明することができます。

また日本の復興事業では「Built Back Better」という方針をとっています。これは元の状態にそのまま戻すのではなく、よりよく作り変えるという考え方です。この考え方にのっとって、津波で流されてしまった地域では

盛り土をして土地を高くしたり、住宅地を高台に移転させたりしています。この方針は災害に対する安全性を高め暮らしやすい環境をつくります。ですが、これを実行するには国民に大きな負担がかかることとなります。その結果、東日本大震災では復興特別所得税が課せられました。多くの人は被災者たちのためになるのならと協力をしましたが、実際は復興とは関係のないところで税が使われていたことも判明し、多くの反感を買いました。また、この方針はあまりにも長い時間がかかるため、その間被災者は仮設住宅での生活を強いられることとなります。税と震災時の対応は密接に結びついているからこそ、自分たちが払っている税がどのように使われていくのかに興味を持つことだけでなく、きちんと把握していくことが大切なのではないでしょうか。もし使い方に疑問を抱いたとき、国民が声を挙げられる環境を作ることも大切だと感じました。

そして現在日本は少子高齢化が進んでいます。医療が進歩しているので、通院する高齢者が増えています。そのため高齢化が進むと高齢者の医療費の負担増があげられます。今後、高齢者に今より負担をしてもらうのか、納税者の負担を増やすのかどちらが良いのでしょうか。私は高齢者に今より負担をしてもらい、所得の多い納税者には税率を高くして税を収めてもらうなどできるだけ平等に納税を続けていくことが大切だと考えます。

今回、この税について考えてみて、今ある税の仕組みを基本的に維持しながら改善すべきところは改善して時代に合った税であってほしいと私は思いました。

## 《八王子優法会長賞》

私たちの安全と安心を守るために

八王子市立松が谷中学校

三年 登 心晴

日本では多くの地震が起こる。いつ、どこで、誰に起こるか分からない。近年では、二〇一一年に東日本大震災、二〇一四年に能登半島地震が起きた。その被害は、火災や建物の倒壊、土砂災害、津波による被害など様々である。また、被災者は、避難生活を余儀なくされ、物資の不足やインフラの崩壊などの影響を受けて苦しい生活を強いられている。このような状況を改善するために行われるのが復興作業だ。被災した地域を元に戻すために、瓦礫の撤去や建物の修繕などが実施される。この復興作業がなければ、その地域が立ち直ることはできない。では、このような復興支援は誰が支えているのだろうか。

調べてみると、復興特別所得税という税金があることを知った。これは、東日本大震災からの復興を図るため、復興財源の確保を目的に創設された付加税であり、二〇一三年から二〇三七年までの二五年間にわたり、所得税額に対して復興特別所得税約二％が課税される。この税金によって集められたお金は仮設住宅の建設、堤防や道路の復旧、放射能汚染地域の除染などに使われる。つまり、遠く離れた地域でも、

近くの地域でも、誰もが被災地の復興に関わることができるという制度になっている。「震災はかわいそうだが、自分には直接関係ないことだ」と考え、付加税に納得いかない人もいるかもしれない。しかし、同じ日本に住む人として、間接的にでも被災地の支援に関わることができるとは素晴らしいと感じるとともに、その制度を知っておくことも重要だと思ふ。

能登半島地震から約半年が経ち、現在も復興作業が進んでいる。負担感から税金に対して不満を語る人も多いが、税金がそれ以上に多くの人を支えていることを、私たちはもっと知らなければならぬ。私たちは税金によって「安全と安心」を得ているのだと改めて自覚すべきだろう。私は、国民一人ひとりが税金の使われ方に関して正しい知識を持つことによつて、豊かな生活が持続していくと思ふ。私たちの未来に向けて、今は正しい知識を身につけ、将来はしっかりと社会人の一員として働き、国のため、私たちのために税金を納めていきたい。

## 《八王子納税貯蓄組合連合会長賞》

よりよい未来のために

八王子市立みなみ野中学校

三年 荒 伸太郎

百円のノートを買って、百十円を払う。

私には当たり前のことである。しかし両親は自分達が中学生の頃には消費税がなかったので、百円のは百円で買えたと言う。昔と比べるとずいぶん不公平な感じがするが、多くの人にとって税の負担が増えた消費税は、なぜ導入されたのであろうか。

日本の消費税に似た制度は、遠くはローマ帝国の時代にもあったようだ。近代に入ってから、一九五四年に第二次世界大戦後の国の復興・立て直しのために「付加価値税」という名前でフランスが導入したものが最初となる。

日本では、一九八九年に初めて消費税が導入され、この時の税率は三%であった。その後一九九七年に五%、二〇一四年に八%と増えていき、二〇一九年からは、八%に軽減されている一部の飲食物を除き、税率は十%へ引き上げられた。

また、令和六年度の日本の予算では、税金収入のうち消費税が二・三%を占めており、様々な税の収入の中でトップとなっている。

そのように、現在の日本で非常に重要となっている消費税

が導入された理由は三つある。一つは、それまで働く人から取る所得税中心だった税の負担を公平にするためである。二つは、人々の生活様式が変化し警沢品にのみ掛かっていた物品税の定義が困難になっている問題を解決するためである。そして最後は、高齢化社会に対応する財源を確保するためである。今後はますます労働人口が減っていく、つまり働く人から取る所得税が減っていく。その一方で高齢者は増加し、国や地方自治体が負担する費用は増えていく。つまり、消費税は人々が税金の収入を公平に負担することによって、すべての人がより良い生活を送れるようにするために導入された税なのである。

私には七五歳を超えた遠く離れて暮らす祖父母がいる。まだまだ元気であるが、そろそろ体も自由に動かなくなってきたと言っている。また昨年は自転車に乗っていて転倒し、膝を悪くしてしまったということもあった。いまは元氣な祖父母も、年齢的にいつ介護が必要になるか分からない。そんな時に頼りになるのが、国や地方自治体による社会保険であり、それを支えている税金である。

消費税のない時代は物が安く買えて良かったなど、両親の話聞いたときには少し羨ましく思った。しかし社会保険費を含め、今後増え続ける国や地方自治体の支出を支えていくためには、一部の人の負担を増やすだけでは難しい。自分もいつか働いて税金を納めるようになるし、その先には高齢者として国や地方自治体に支援をもらうようになる日が来る。その時に税金の負担が重かったり、充分な社会保険が受けられなかったりする世の中であって欲しくない。

いまの自分の税金の負担がより良い未来につながることを心に留めておこう。

## 《八王子納税貯蓄組合連合会長賞》

森林の保護者 森林環境税

東京都立南多摩中等教育学校

三年 石川 丈

私の家の近くには、四季折々の素晴らしい景観が楽しめる里山がある。この山には、鳥や昆虫がいる外、めずらしい山野草も生えている。中腹の広場では、私もバドミントンでよく遊んだ。小さい頃からこの山に親しんでいた私は、この山が永久にこの姿のままであってほしいと思っている。

しかし、近年は地球温暖化が進行し、各地の里山が放棄されているらしい。私は、その事を深刻に捉え、自然を保全するための税はないかと調べた。すると、「森林環境税」というものがあると分かった。

森林環境税とは、個人住民税に千円上乗せして国が徴税し、保全が必要な市町村・都道府県に「森林環境譲与税」という形で再配分される、というものだ。税を受けとった市町村は、森林の間伐などの手入れや、子どもへの環境教育などに使用される。また、三十七都道府県と横浜市では、「水源環境保全税」、「森林環境保全税」など、独自の地方税も導入されており、自然のために役立てられている。

私は、特に里山のある地域でのイベント・企画の開催や子どもたちへの環境教育に税を使って欲しいと考える。理由を

説明すると、まずイベント開催は、来場者の人に里山のことを効果的に伝えることができる。例を挙げるなら、めずらしい植物の観賞会や、山でとれる山菜等を使った料理を作る、木を植林して定期的にお世話する、などだろうか。最近SNSも発達しているので、イベントの告知を行うことも良いかもしれない。多くの人に里山のことを伝えるのに、イベントは有力だろう。また、子どもへの環境教育は、次の世代を担う子どもに里山の問題を伝えられるという点で有力だ。里山を見たことない子たちの、里山への関心を引き出せるかもしれない。イベントと環境教育二つに共通しているのは、多くの人に興味を持ってもらうことが大切だということだ。森林環境税はこれらに役立てて欲しい。

ただ、この税は年額一人千円である。全ての対象者から収入に関係なく同額を徴収するのは不公平だという声もあるようだ。たしかに、税金の公平さは大切だ。しかし、今はそうも言っていない。というのも、地球温暖化が進行してきているからだ。このままだと、地球の状態はかなり酷くなってしまう。だが、里山にある森林は二酸化炭素を吸収するので、里山が整備されれば地球温暖化の緩和・改善の助けになるかもしれない。このことは、日本全国の人々の利益になる。そのため投資と考えれば、払うことにも前向きに捉えられらるのではないだろうか。

日本の美しい自然は、一人一人の意識によって守られる。森林環境を納税して、皆が未来と里山について考えてくれることを願っている。

## 《八王子納税貯蓄組合連合会長賞》

税の意義とその重要性

八王子市立石川中学校

三年 田中 日葵

私たちの生活には税が必要不可欠です。税とは、政府が公共のサービスやインフラを提供するために市民から集めるお金のことを指します。私は、税金は私たちの生活にどのような影響を与えているのか、そしてその意義を調べ、考えてみました。

まず、税金の基本的な役割は公共サービスの提供です。教育、医療、交通、安全保障など私たちが日常生活で享受している多くのサービスは税金によって支えられています。例えば学校教育は政府の財源から運営され、税金がなければ十分な教育制度は成り立ちません。また、病院や診療所も同じように医療サービスの提供に必要な資源は税金によって賄われています。これらのサービスは個々の市民が自分の力だけでは成し遂げられないものであり、税金を通じてみんなで支え合うことが求められています。

次に、税金は社会の平等を促進する役割を持っています。所得税においては高所得者に対して高い税率が適用されることが一般的です。これにより富の再分配が行われ、社会全体の格差を軽減する効果があります。税金があつてこそ低所得者層や困窮者への支援が可能になり、全体の生活水準の向上

が図られます。また、福祉制度や年金制度なども税金を基盤にしており、これらは社会保障の一環として重要な役割を果たしています。

しかし税金について考える際には負担感も無視できません。多くの人々が税金を負担することに対して不満を抱くことがあります。それは、税金が高いと感じたり不適切に使われていると感じたりすることから来ていることが多いです。そのため、税金の適正な使い道や透明性が求められています。政府は税収をどのように使用しているのか、どのような政策が市民にとって影響を与えるのかを積極的に情報提供し、市民の理解を得る必要があります。さらに、税金の使い道には市民の意見が反映されるべきです。地域ごとに必要な公共サービスは異なるため、地方税制などの仕組みも重要です。地域住民が自らの地域に必要な政策やサービスについて意見を表明し、それに基づいて税金の使い道を決定することで市民の不満を減少させることが出来ます。税の意義を理解することは市民としての責任でもあります。税金は私たちの生活を支える大事な資源であり、税の存在を理解することで社会全体の一員としての意識が高まります。税を納めることは単なる義務ではなく、社会に貢献する手段でもあります。私たち一人一人が税金の使われ方に関心を持ち、その重要性を理解し、積極的に参加することでより良い社会を築くことが出来ます。税はただの負担ではなく社会を支える根幹であり、私たちの生活の質を向上させるための重要な手段です。この事を胸に刻み、私たちが自身が社会に対してどのように貢献できるかを考えていくことが求められています。

## 《八王子納税貯蓄組合連合会長賞》

納税は「未来への投資」

八王子市立長房中学校

三年 モリーナ 勢登鳥

最近、僕が税について考えを改めたきっかけとなる出来事があった。アメリカに短期留学に行った従兄の体験談の一つである。彼が留学先で入っていたアメフト部での試合中、彼の友人は強烈なタックルを受けて倒れ、救護室に運ばれた。

「救急車は呼ばないでくれ」と言いのことして失神したのが衝撃的だったという。結局、救護室で処置を受け大事には至らなかったそうだが、僕は従兄の友人がなぜ救急車を呼ぶなと頼んだのが気になる、調べてみることにした。

まず、日本とアメリカでは根本的な医療制度が違うことが分かった。日本では国民全員が保険に加入する国民皆保険制度や未成年の医療費助成など、税金による公的援助が存在し、比較的安価に医療サービスを受けることができる。しかしアメリカでは、公的医療保険制度が非常に限定的で、その加入者は国民全体の三割にとどまり、国民の五割は民間医療保険に加入している。このような医療制度が一因となり、一日の入院で百万円以上、救急車も二十万円以上と、日本では考えられない費用がかかることがある。他国では国民皆保険だが公的保険が民間保険かを選択できたり、税方式による公営の

医療サービスがあるなど、他にも多くの制度が存在することが分かった。こうして知ったのは、日本を含む多くの国は医療費が税金によって補助されていることだ。しかし、高額な医療費の多くが税金で賄われていることを知ると、税収全体のどのくらいの割合が公的医療サービスに使われているのかが知りたくなった。そこで国の一般会計歳出額を調べてみると、国の歳出の実に半分以上が公的保険や社会保障に使われていることが分かった。税金をほとんど納めていない僕たち未成年の健康も他の大人たちの税金によって守られていると知り、ありがたく感じた。

ここまで調べてみて、日本の税制度にも改善できる点があると感じた。高額医療などの医療格差や、自治体ごとの資金の違いなど、今も残る問題もある。歳出先の見直しなどで無駄なコストを減らしたり、他国の取り組みを参考にしてより良い資金運用が行われるようになってほしい。最後に、僕にできることを考えてみる。真っ先に思いついたのは、「健康でいること」、医療機の受診が必要になる病気を予防するため、手洗いうがいなどを徹底したい。また、僕らの受ける学校教育は資金の多くが税金により賄われている。未来に向けて「しっかりと学び、活かす」ことも大切だ。未来を担う世代の健康と教育を支える納税は、まさに「未来への投資」だと言える。責任ある大人として国を支える一員となれるよう、このことを心にとめて生活していきたい。

作品の中には、誤字脱字等が含まれる  
作品がありますが、作品の性質上、原文  
のまま掲載しております。